

沖縄の自治会と自衛隊基地 (5)

—南城市字つきしろにおける自治—

佛教大学 牧野芳子

1 目的

沖縄本島南部の南城市には、陸上自衛隊と航空自衛隊の基地がある。このうちの航空自衛隊知念分屯基地に隣接する字つきしろは、本土復帰直後、民間主導で開発されたいわゆるニュータウンである。その後、空き地空き家の増加でゴーストタウン化したこの街は、隣接する自衛隊の協力も得ながら、地域の健全再建に向け努力し、2013年4月から字界を統合して南城市「字つきしろ」が誕生することとなった。一方、沖縄本島において「字」「自治会」「行政区」といった名称は、今もそれぞれの地域で独自のイメージをもって使われており、すべてを同様に扱うことはできないが、沖縄の住民にとって、中でも「字」に対する意識には特別なものがある。本報告では、そのような意識を踏まえつつ「字つきしろ」誕生までの過程と自治について考察する。

2 方法

「ニュータウンつきしろの街」誕生から「字つきしろ」が誕生するまでに歩んできた経緯について、つきしろの街自治会が発行した記念誌、町村史・議会会報・広報紙、県内2紙の新聞記事などの文献資料を整理し把握する。また、現自治会会長、地元出身・選出の市議員などをはじめとする地域住民、地元自治体などへのヒアリング調査を実施し検討を行う。

3 結果

「字つきしろ」は、1975年宅地造成が完了し、ニュータウン「つきしろの街」としてスタートを切った。その後1979年、旧佐敷町(当時佐敷村)議会により、村内の区画について「行政区」として承認される。さらに平成の合併時には、南城市誕生以前の2003年に設置された合併協議会でも「つきしろを字に」という提案がなされている。民間開発のニュータウンであるため、維持管理をめぐる区費や交通の便、公民館建設など様々な問題が噴出してきたが、その都度、住民は、行政・企業と根気よく話し合いを重ねて解決してきている。合併後も、この地域が旧佐敷町字佐敷、旧玉城村字垣花、旧知念村字志喜屋の3字にまたがるため生じる、日常生活の中での様々な不都合を解決すべく、市と話し合いを重ね、「字つきしろ」誕生に至った。また、近年はゴーストタウン化した地域の一部を、隣接する自衛隊の協力を得て改善、隊員の歓送会を有志で行うなど隣人としての自衛隊との交流も見られる。

4 結論

当初の聞き取り調査では、「字つきしろ」の誕生は、個性的な現区長の人柄とたゆまぬ尽力によるものと理解していた。そのため、後継者問題の行方によってはこの地域の今後が懸念されたが、現区長は自信をもって「後継者はいる。今後も大丈夫。」と明言した。その背景にはこうした先人たちの努力とそれによって育まれた地域性が伺える。そしてそのことが、周囲からの地域への信頼にもつながり、「3字にまたがっていた地域を統合したから新しい「字」が出来た」だけではなく、「字になる」ことを可能にしたのではないかと考えられる。

文献・資料

- ・つきしろの街自治会 1999年 『つきしろの歩み「つきしろの街」20周年記念誌』
- ・佐敷村議会 1977～1981年 『佐敷村議会報』